

「家で暮す」を

あきらめないで！

もし、ご家族が要介護状態になり、家に入
りすることが難しいために「家で暮らす」を
あきらめようとされているのであれば、ちよ
っと待ちください！まだまだ、共に暮せる
可能性もあるかも知れません。

私たちは、段差の助っ人「ダンサスケッ
ト」です。困難と思われた事例を乗り越
えた事例をいくつかご紹介いたしまし
ょう。

オーダーメイドできるレンタル段差解
消機「ダンサスケット」によって広がる
世界をご覧ください。

レンタルで使う 段差解消機のポイント

安全



○レンタルだからといって安易に軟弱な土台の上に装置を置いて使うと大変危険です。多少の費用がかかってもコンクリート等で土台を整備しましょう。

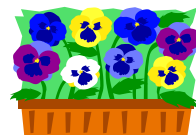
○介護者が一緒に載れるか否か、積載荷重の能力、乗るスペースの確認が必要です。車いすの動線と介護者の動線を考え、車いす利用者に不安感がないように配慮してください。（一人乗りになる場合は、介護者が声をかけたり、いつもそばに付いてあげられるような配慮が必要です。）

玄関から？

アプローチ

テラスから？

外構は？



○住宅と道路との高低差を見た時、どのルートを通ってアプローチするのが良いか？住宅のどこから、出入りするのが良いかよく検討してください。時には、発想の転換が必要です。そして、その場所の高さに合った昇降能力のある機器を選んでください。

悪い例：段差が85cmあるのに60cmの昇降能力の機器を選定した。残りの段差25cmを急勾配のスロープを造った。

解決法：昇降能力が80cmある機器を選定する。スロープの勾配は1/8から、できれば1/12以上とって造る。

○レンタルだからといった安易な考えでなく、よりよく生活するために既製概念に捕らわれず計画することが大切です。

使いやすさ



○どんな段差解消機でも、段差解消機の台の厚みが段差になってしまいます。台の厚み分をピット式に掘り下げて設置する事により、乗り込み時の段差がなくなり画期的に使用しやすくなります。ちょっとした工夫ですが大きな違いができます。

○ちょっとした配慮や工夫で自立使用が可能になることがあります。スイッチの形状、位置、数などを配慮してください。自分でスイッチを押すだけでも利用者にとっては、自立の喜びとなることがあります。

○段差解消機が、生活スペースを狭くしてしまう事もあります。手すりの有無、大きさ昇降の向き等を検討し、日常生活全般の使い勝手も考慮して選んでください。

家から出入りできない困難な理由1 「狭い」

住宅と敷地がほぼ同じ面積で、住宅と外部との段差を解消するスペースがない場合が多くあります。スロープはもちろんのこと、段差解消リフトを設置するスペースもないことがあります。



事例1

外部道路と床の段差は、約50cm有り。
歩行が困難になったご主人を車いすのまま
家から出入りしたい！

事例1の結果

玄関ドアの高さを外部道路の高さまで下げる住宅改造を行い、超小型に作ったダンサケットを玄関床にピットを作り設置しました。(サイズ: W750×L950mm)

介護用車いすのまま、家から出入り可能となりました。



事例2

玄関以外に出入りする場所がなく、
玄関の外側のスペースが狭い為、ス
ロープを使うと方向転換が困難。床ま
での段差は、約25cm。



事例2の結果

既存の土間を解体し、ピットを作る住宅改修を行った。床の大きさに合わせてダンスケットをW780×L1030に製作した。車いすの車輪が載るギリギリに寸法だったが、車いすのまま出入りできるようになった。



土間解体

完成設置後



家から出入りできない困難な理由2

「段差の大きさ」

日本は、湿度が高い気候のために一般的な住宅は、土台から約50cm位高い位置に床を作っています。床下の換気をするためです。これが段差の基本原因になるのですが、敷地が傾斜地であったり、土盛りをして住宅を建てた場合は、さらにこの段差が大きくなっています。段差が1mを越してしまうケースも少なくありません。



事例3

玄関の前に階段のスペースはありますが段差が約80cmあります。

事例3の結果

玄関前の階段を半分解体し、段差解消機の設置スペースを作りました。手すりは、ご家族が歩行で出入りするために左側のみ取り付け歩行スペースを確保しました。

共に暮す家族の方の動線の妨げにならないよう注意することも大切です。道路縁石の段差は、自動車用の置き式にしました。



大きな段差

駐車スペースと床との間に段差1.6mあったケースです。床からウッドデッキに出てからダンサスケットの載ります。

駐車する自動車が、ギリギリにバック出来るように手すりは、奥側しかありません。反対側は、車止めの黄色い立ち上がりを設けてあります。テーブルも大きく介護の方も一緒に載っていただけます。



昇降高さ1.6m設置例

段差1mの例

駐車場から住宅土台までの段差が、1mのケースです。車いす+介護者2名利用できます。積載荷重250kg
電動車椅子も十分利用可能です。

ダンサスケット EDS-1-10



家から出入りできない困難な理由3 「方向転換」

段差を解消すると同時に車いすの動線を方向転換しなくてはならないケースがあります。スペースに余裕があれば車いすが方向転換し易いのですが、狭いスペースで段差を解消しながら、方向転換したケースです。

事例4

ご利用者ご自身が運転する車の駐車スペースを確保しつつ、段差解消+方向転換しました。段差約1.2m



方向転換事例5

掃き出し窓の前を自動車が通過する為に
段差解消機上で方向転換も行えるように
しました。テーブル幅を拡大し、スロープも
付けました。



昇降高さは約90cm



方向転換 事例6

駐車スペース確保と玄関戸の方向から段差解消機上で方向転換を必要としたケース。歩行利用者の安全な動線も確保しています。



家から出入りできない困難な理由4

「自立利用」

「出来るかぎり自分で出来ることは自分で行いたい。」との願いにお応えしたケースをご紹介します。介護機器は、その名の通り介護用に作られているため介護者にとって使いやすいうように考えられています。これを自立利用しようとすると思わぬ障害に突き当たります。

1. 据え置き方のスロープ？
わずかの段差を解消するためのスロープの角度がきつい為、自立利用できない。
2. 操作スイッチ？
押し続け式のスイッチ操作のため、昇降中スイッチを押し続けられない。
3. 昇降速度がかなり遅い？
昇降速度がかなり遅い為に、スイッチを操作する時間もかなり長くなり大変。
4. 電動車椅子は、重い為無理？
自立のために電動車椅子を利用したいが、体重+車いすが昇降できない。
などなどの問題があります。

事例7 段差0を目指せ！

本利用者の方は、リュウマチのために指の関節が変形しボタン操作がうまくきませんでした。一方電動車椅子の操作はうまくできていました。

ダンサスケットを埋め込み設置し、操作スイッチを上下と床側から出来るように3箇所取り付けました。操作もワンタッチ式にして、一度だけ押せば昇降するタイプにしました。

電動車椅子で、自立して自由に外出出来るようになりました。

通常：下降時



使用時：上昇時



事例8

自立のためのピット式の有効利用

80歳、男性。

障害者となってからの年数が、40年以上になる方。これまでは、上半身の能力で移乗していたが、加齢による体力の低下に伴い、段差解消機の利用を考える。



玄関左側にご自分の部屋があり、玄関を3方向に使っている。

事例8の結果

ご希望の3方向への自立利用とご家族の方の玄関の使い勝手を損なわない方法としてピット式にしました。床材をそのまま利用できたため元の玄関とほとんど変わらない感じになりました。段差0、方向転換、自立利用を実現しました。



事例9 集合住宅 ベランダ設置例

ベランダ手すりの改造とアプローチ工事は住宅管理側で対応いただきました。



昇降高さ約1m

事例10 外部 掃き出しサッシ部

掃き出し窓から直接外部道路に出られるようにしたケース。

道路～庭 50cm、庭～床 50cmの段差を一挙に解消できました。

